

# 2024（令和6）年さけます来遊状況（第7報：2/28現在）

## 4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、3年魚（2021年級）、4年魚（2020年級）および5年魚（2019年級）は前年および平年を下回る
- 北海道太平洋側では4年魚が平年の30%で1994（平成6）年以降で4番目に少なく、北海道日本海側では5年魚が平年の38%で1994（平成6）年以降で4番目に少ない
- 本州太平洋側では4年魚は1994（平成6）以降で2番目に少なく、3年魚と5年魚は最も少ない。本州日本海側では3年魚、4年魚、5年魚いずれも1994（平成6）以降で最も少ない
- サケの平均重量は北海道で2.96kg、本州で2.85kgとなり、1994年以降で北海道、本州ともに2番目に小さい

\*1：平年とは、1994（平成6） - 2023（令和5）年の平均値

### ・サケの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したサケの年齢組成の途中経過をもとに、2月28日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2020年級）が全体の75%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が18%、3年魚（2021年級）が6%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の51%、平年同期の32%、4年魚は前年同期の83%、平年同期の47%、5年魚は前年同期の73%、平年同期の18%となっており、1994（平成6）年以降で3年魚は最も少なく、4年魚は4番目に少なく、5年魚は3番目に少ない値となりました（図1）。

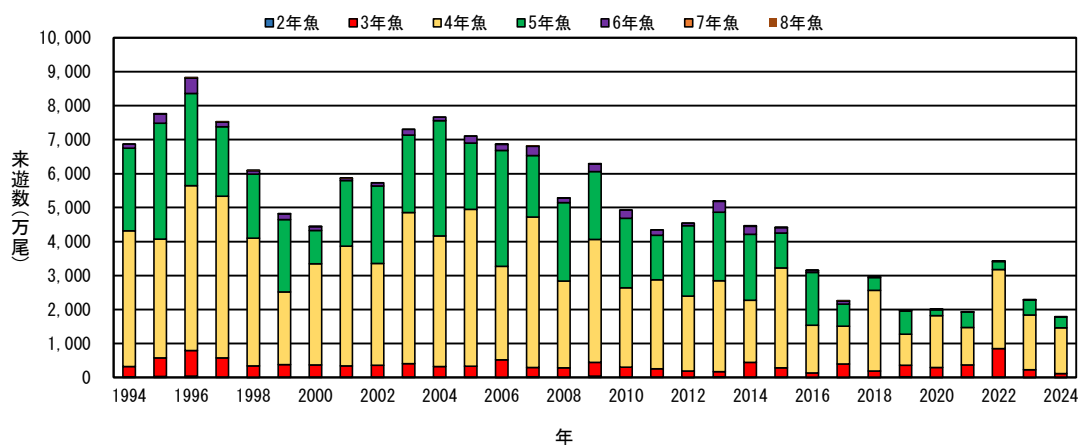


図1. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2020年級）が全体の76%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が14%、3年魚（2021年級）が10%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の67%、平年同期の39%、4年魚は前年同期の106%、平年同期の30%、5年魚は前年同期の98%、平年同期の9%となっており、4年魚は1994（平成6）年以降で4番目に少ない値となりました（図2）。

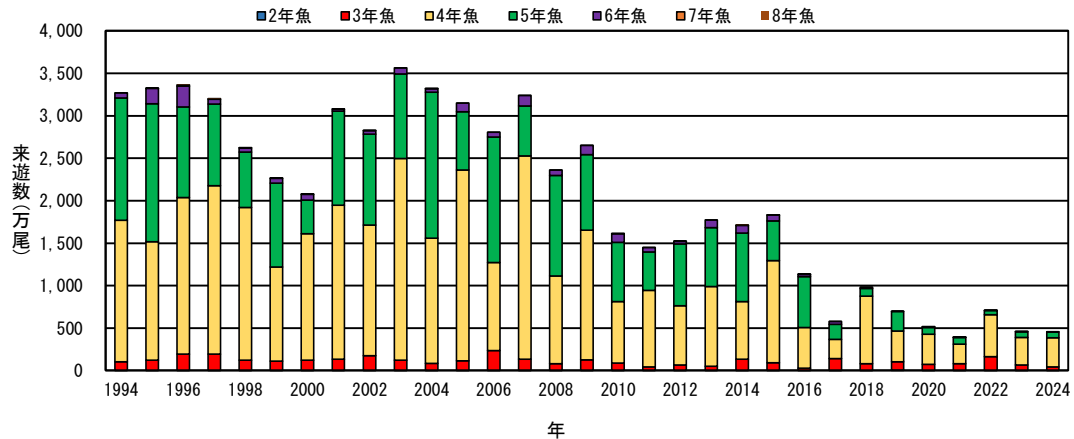


図2. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の33%の水準となりました。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の28%の水準となりました（図3）。

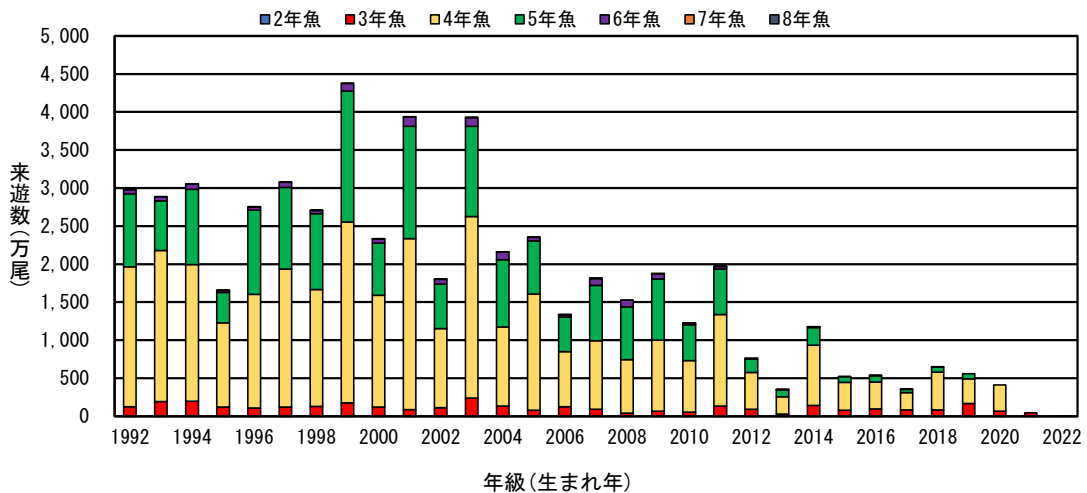


図3. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2020年級）が全体の75%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が19%、3年魚（2021年級）が5%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の44%、平年同期の50%、4年魚は前年同期の77%、平年同期の91%、5年魚は前年同期の70%、平年同期の38%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で4番目に少ない値となりました（図4）。

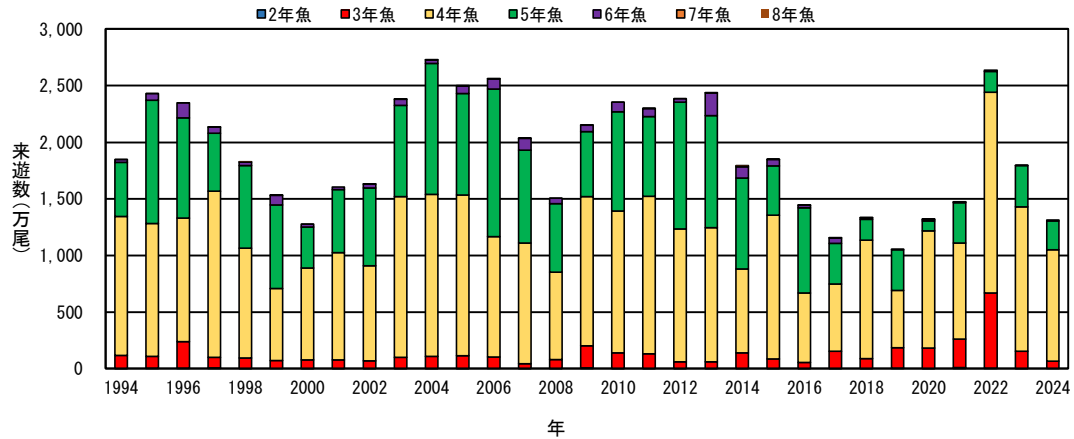


図4. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の95%の水準となりました。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の121%の水準となりました（図5）。

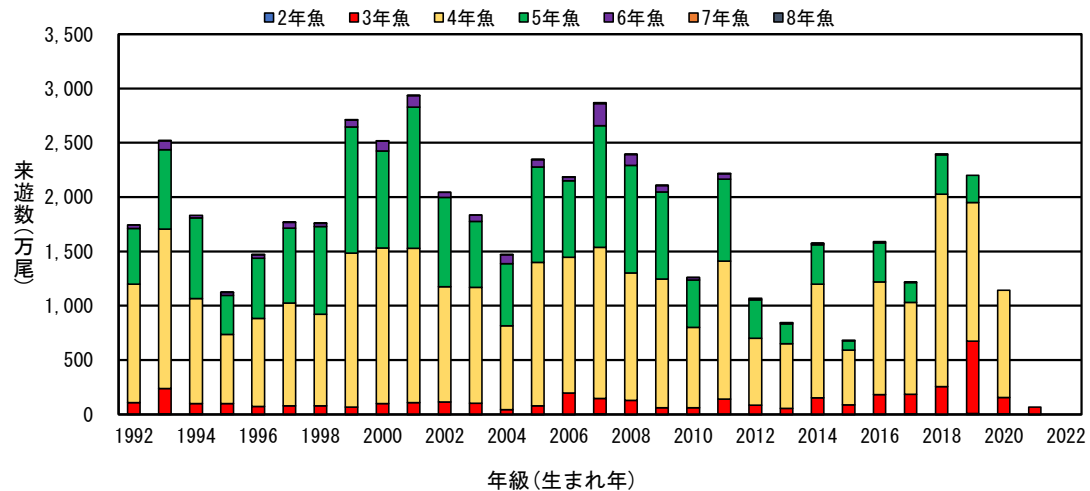


図5. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2020年級)が全体の70%を占めて最も多く、次いで3年魚(2021年級)が20%、5年魚(2019年級)が9%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の54%、平年同期の2%、4年魚は前年同期の151%、平年同期の1%、5年魚は前年同期の23%、平年同期の0.2%となっており、4年魚は1994(平成6)年以降で2番目に少なく、3年魚、5年魚は最も少ない値となりました(図6aおよび図6b)。

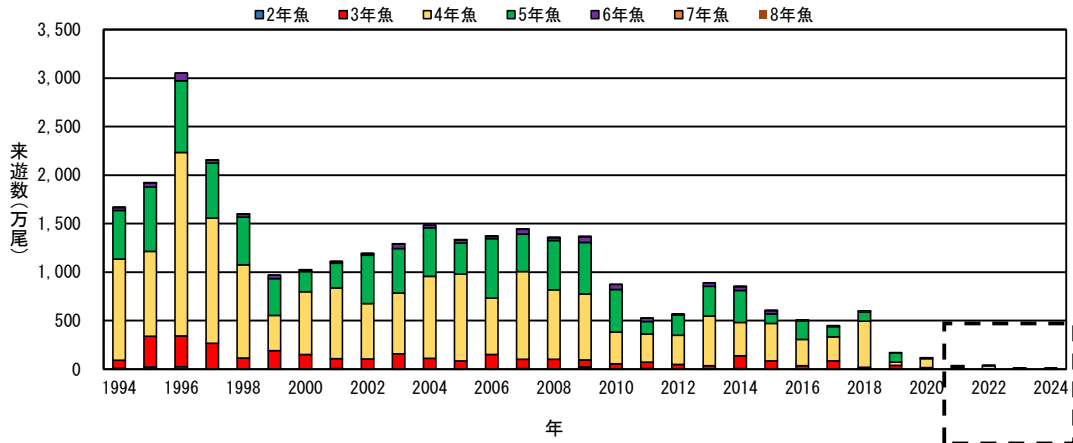


図6a. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

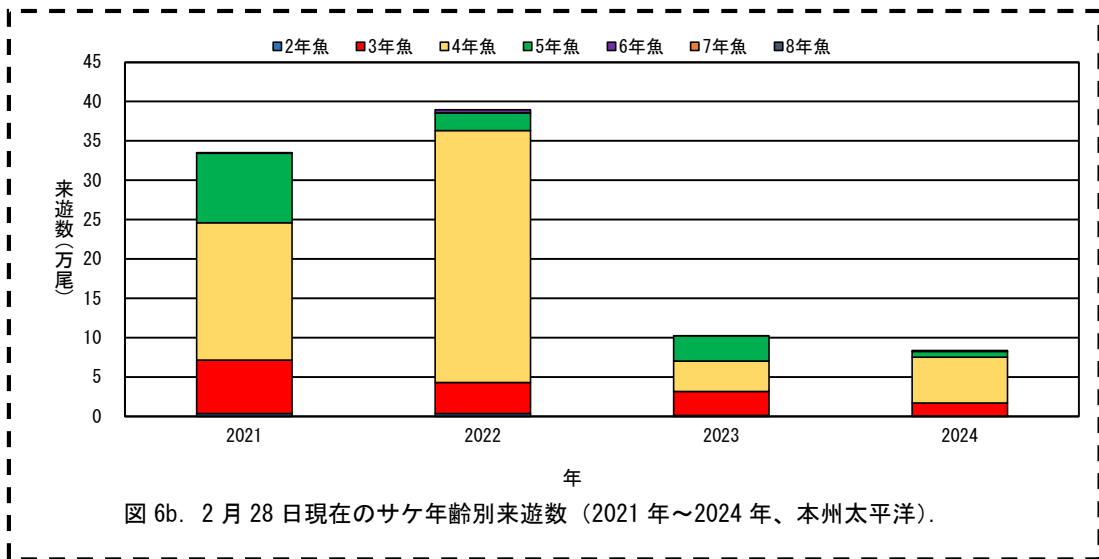


図6b. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数(2021年~2024年、本州太平洋).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992~2019年級の平均の1.4%の水準となりました。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992~2018年級の平均の0.9%の水準となりました(図7aおよび図7b)。

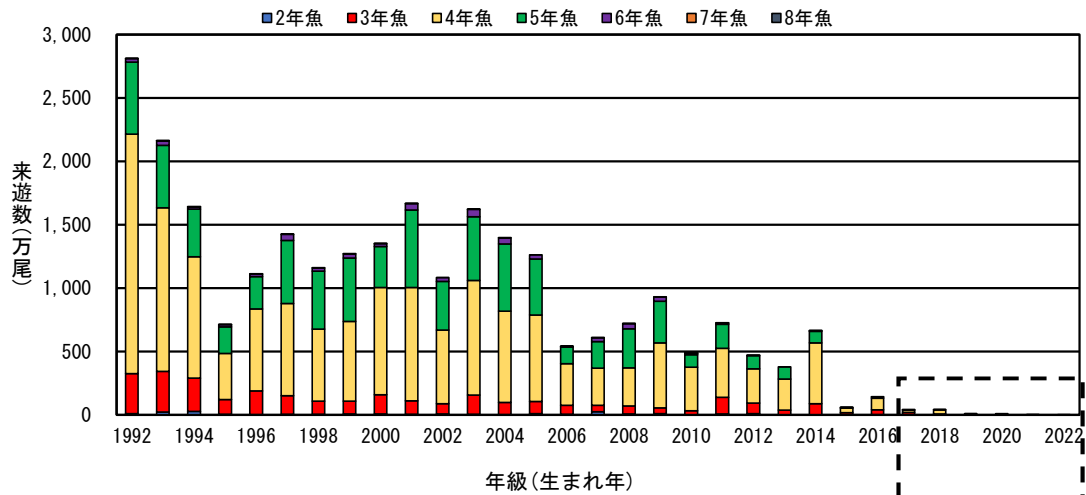


図 7a. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

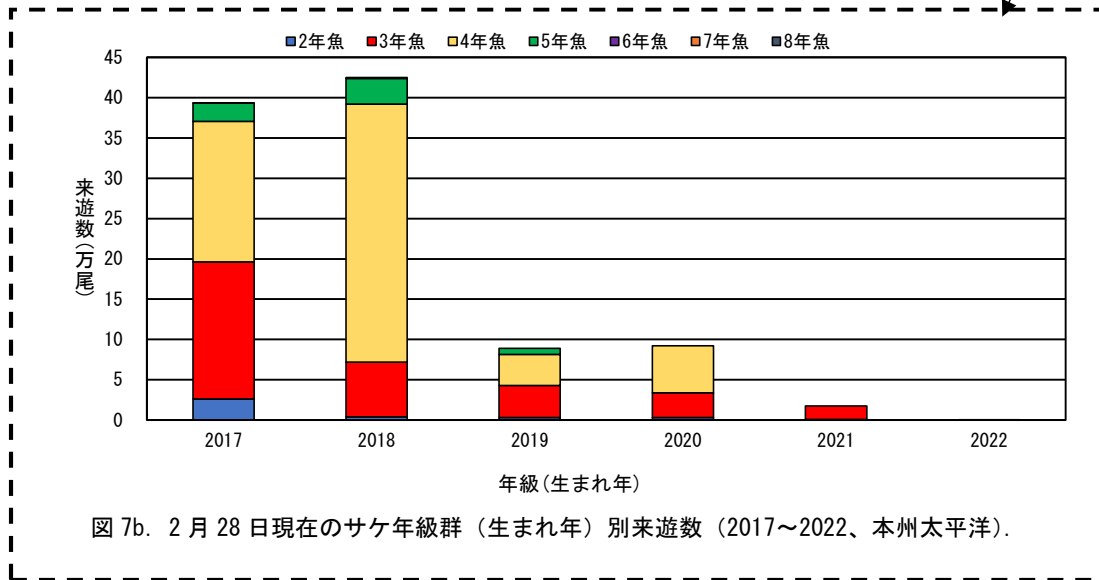


図 7b. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2017～2022、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2020年級）が全体の73%を占めて最も多く、次いで3年魚（2021年級）が19%、5年魚（2019年級）が7%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の37%、平年同期の17%、4年魚は前年同期の97%、平年同期の21%、5年魚は前年同期の35%、平年同期の6%となっており、3年魚、4年魚、5年魚いずれも1994（平成6）年以降で最も少ない値となりました（図8）。

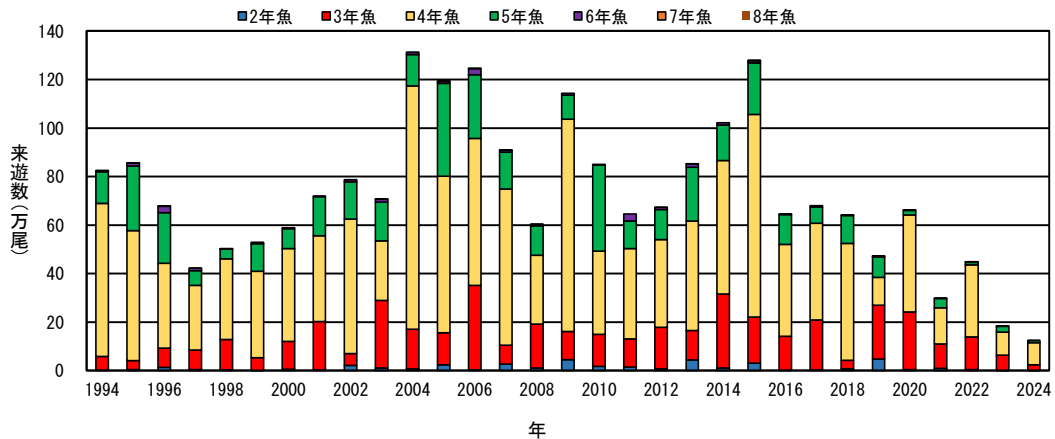


図8. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の27%の水準となりました。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の33%の水準となりました（図9）。

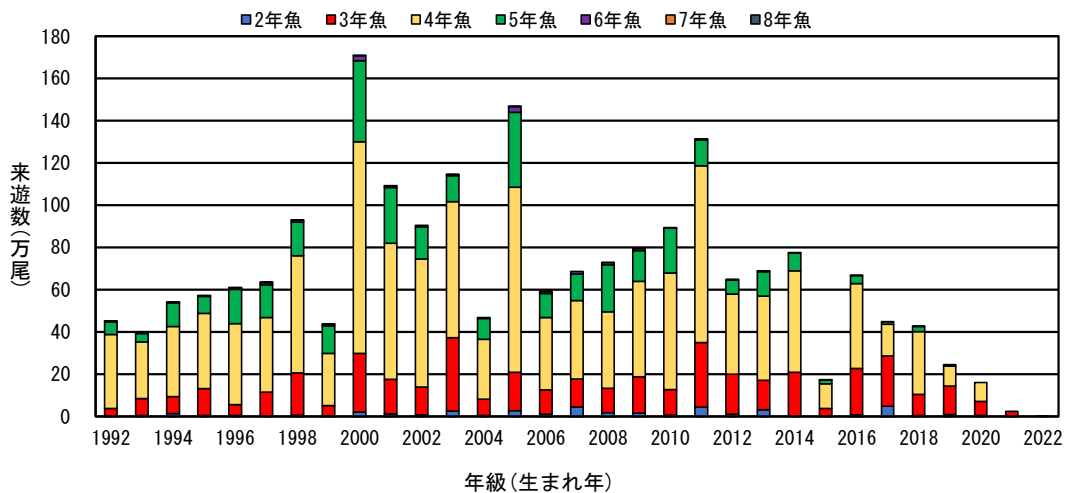


図9. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）。

・サケの体サイズ  
(北海道)

北海道における2月28日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.96kgであり、前年同期の平均重量3.02kgを下回り、1994(平成6)年以降で2番目に小さい値となりました(図10)。

また、北海道の主要河川に2月28日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は64.7cmであり、前年同期の平均尾叉長65.9cmよりも小さく、1994(平成6)年以降で5番目に小さい値となりました(図11)。

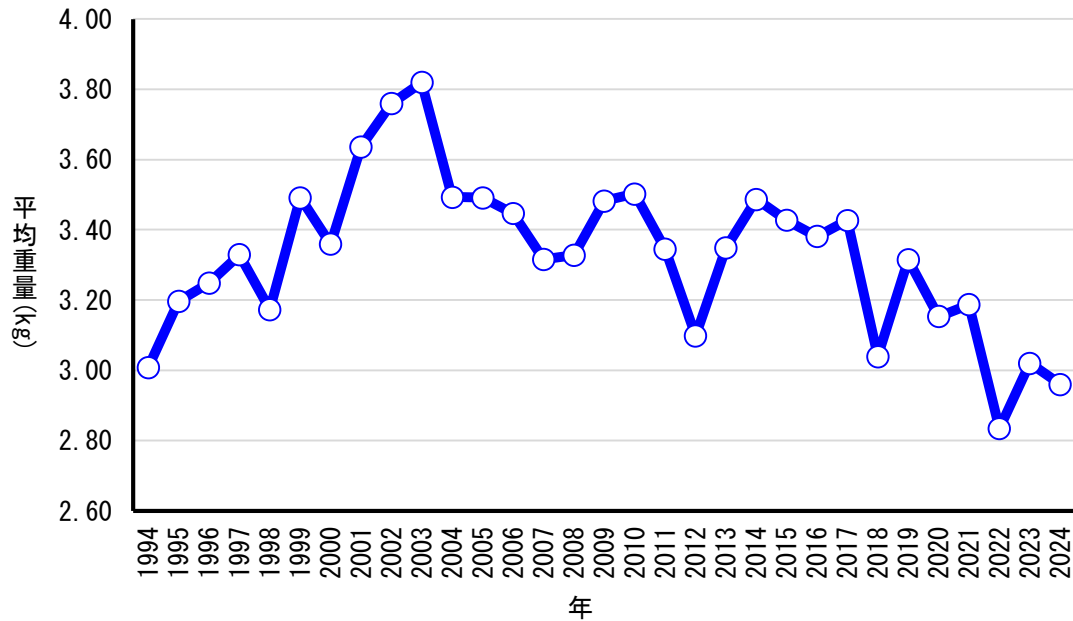


図10. 2月28日現在のサケ平均重量(北海道)

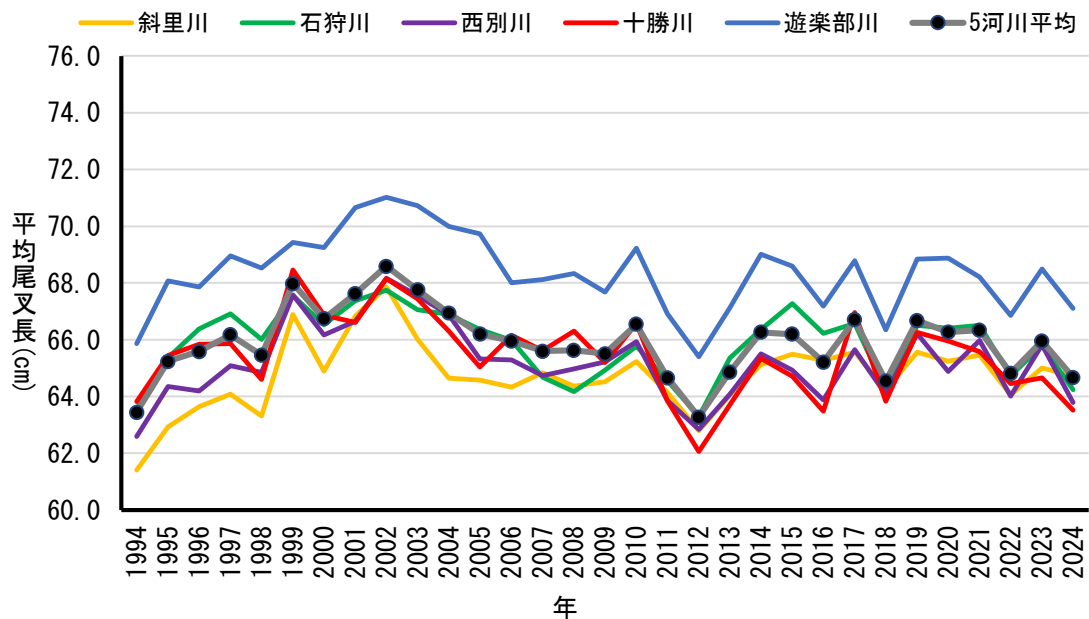


図11. 2月28日現在の北海道主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長

(本州)

本州における2月28日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.85kgであり、前年同期の平均重量3.03kgを下回り、1994(平成6)年以降で2番目に小さい値となりました(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に2月28日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾又長はそれぞれ68.5cm、69.2cmであり、前年同期の平均尾又長69.7cm、71.6cmと両河川とも小さくなりました(図13)。

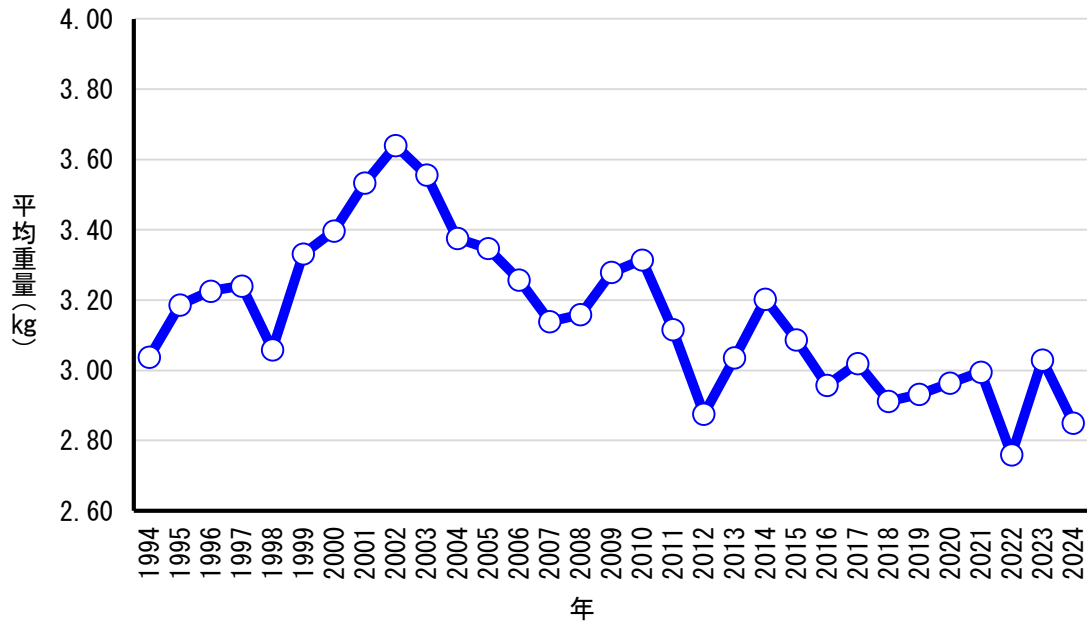


図12. 2月28日現在のサケ平均重量(本州).

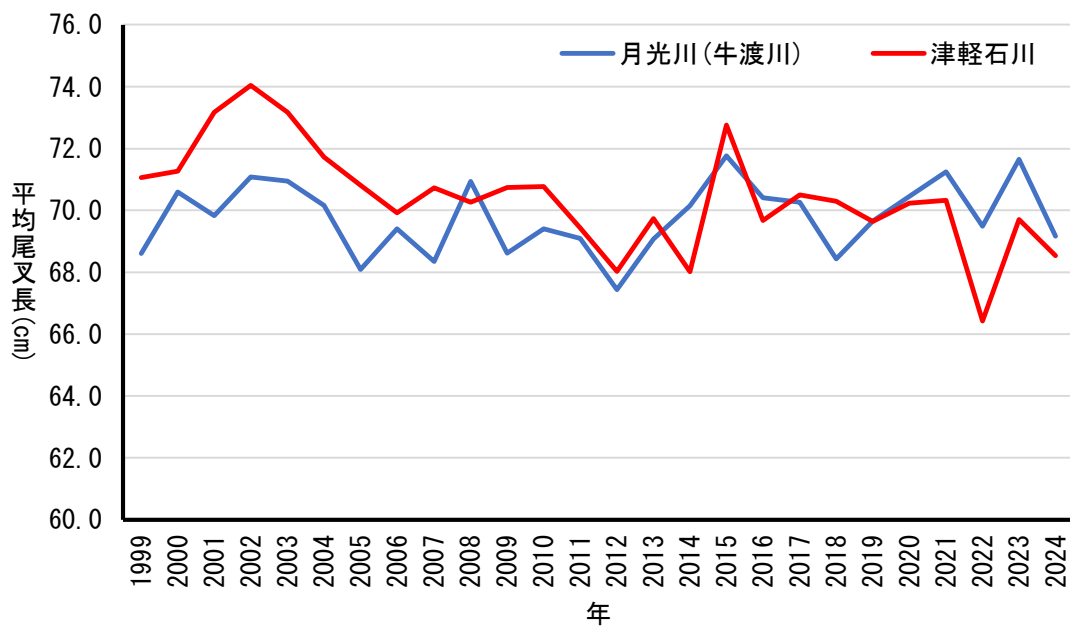


図13. 2月28日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾又長.